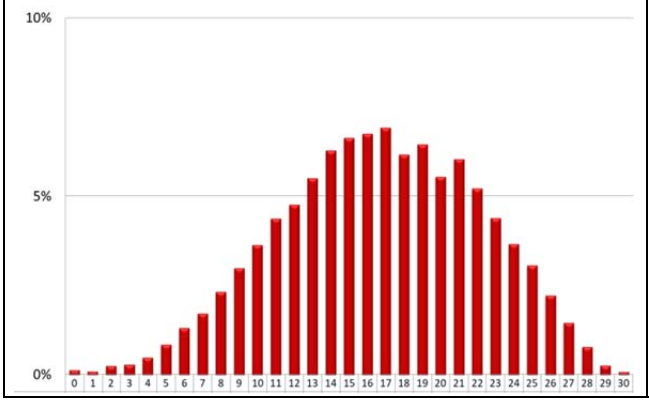
平成 30 年度岩手県中学校新入生学習状況調査　指導資料　　平成 30 年 7 月　発行　岩手県教育委員会

授業改善の手引　中学校第１学年国語

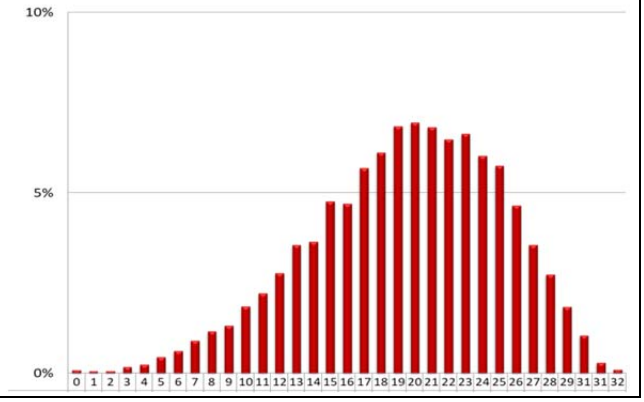
1　調査結果

(1)　分布状況

【H30】中１（30 年４月実施）



【H29】中１（29 年４月実施）



○　問題数は、昨年度より２問少なく 30 問、正答数の最頻値は 17 問、平均正答数は 16 問です。昨年度と比較すると、分布の山に大きな変動はありませんが、正答数の最頻値より高い正答の割合は 44%、低い正答の割合は 47%で、分布の山が左に移動しています。

（正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数）

(2)　領域等の正答率

領　域　等		正答率 （　）は H29 新入生学調、〈　〉は H28 県学調（小５）		
話すこと・聞くこと	（ 4 問）	72%	(75%)	〈74%〉
書くこと	（ 3 問）	45%	(42%)	〈47%〉
読むこと	(10 問)	44%	(41%)	〈51%〉
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	(13 問)	62%	(74%)	〈65%〉
活用	（ 3 問）	49%	(39%)	〈43%〉

(3)　結果概要

○　領域ごとの正答率において、「書くこと」が 45%、「読むこと」が 44%と、昨年度をそれぞれ３ポイント上回りました。特に、小問ごとの正答率において、「文章の内容を的確に押さえて読む」問題が 77%（＋41 ポイント）、「場面の移り変わりを読む」問題が 38%（＋12 ポイント）、「表やグラフから読み取ったことを書く」問題が 50%（＋14 ポイント）で、よい状況にあります。また、活用問題（３問）が 49%と昨年度を 10 ポイント上回りました。

○　「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる」問題においては、正答率が 84%と昨年度を７ポイント、「文の構成について理解する」問題においては 84%と昨年度を 19 ポイント、それぞれ上回り、改善傾向にあります。

●　領域ごとの正答率において、「話すこと・聞くこと」が 72%（－３ポイント）と昨年度を下回る結果となりました。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、62%（－12 ポイント）と下回りました。特に、「熟語の構成を意味とのかかわりから理解する」問題が 19%と昨年度を 46 ポイント下回る等、各小問の正答率の低さが目立ちました。

●　また、「読むこと」領域の小問「目的に応じて、中心となる語や文を捉えて読む」問題における無解答率の割合が 13%と昨年度より４ポイント上回ったことから、指導の工夫が必要な状況にあります。

(4)　小問別正答率

問題番号 大問	中問	小問	通番号	調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択No. 1 選択	2 選択	3 選択	4 選択	5 誤答	6 正答	0 無解答
1	(1)		1	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		76					24	76	
	(2)		2	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		73	2	73	24	1			
	(3)		3	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		81	3	8	7	81			
	(4)		4	話し合いにおける司会の役割がわかる。	第5・6学年「話・聞」(1)オ	話・聞	経年	57	19	11	57	13			
2	(1)	①	5	第6学年配当漢字「郷里」を正しく読む。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		66					30	66	3
		②	6	第6学年配当漢字「供える」を正しく読む。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		83					16	83	1
	(2)	①	7	第5学年配当漢字「豊富」を正しく書く。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		58					25	58	17
		②	8	第5学年配当漢字「慣れる」を正しく書く。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		58					15	58	26
	(3)		9	日常使われる敬語を正しく使う。	第5・6学年「伝国」(1)イ(ク)	伝国		88					9	88	2
	(4)		10	ローマ字で表記されたものを読む。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		77	6	77	8	8	1		1
	(5)	ア	11	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		54					32	54	14
		イ	12	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		84					12	84	4
	(6)		13	和語・漢語・外来語の区別について理解する。	第5・6学年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		45					40	45	15
	(7)		14	熟語の構成を意味との関わりから理解する。	第5・6学年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		19	19	11	5	64	1		1
	(8)		15	文の構成について理解する。(修飾語)	第5・6学年「伝国」(1)イ(キ)	伝国	経年	84	4	11	84	1			
	(9)		16	故事成語の意味や使い方を理解する。	第3・4学年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		36	22	7	34	36			1
	(10)		17	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		57					29	57	14
3	(1)		18	場面の移り変わりを読む。	第3・4学年「読」(1)ウ	読		38					59	38	3
	(2)		19	登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読	経年	24					67	24	9
	(3)		20	場面の描写と登場人物の様子を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		30					59	30	10
	(4)		21	登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読	経年・活用	64	12	9	64	12	1		2
	(5)		22	表現の仕方をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		47	47	10	13	27	1		2
4	(1)		23	文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		77	12	4	4	77	1		2
	(2)		24	文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		50					43	50	8
	(3)		25	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて読む。	第3・4学年「読」(1)イ	読		31					57	31	13
	(4)		26	文章の要旨をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読	経年・活用	34					51	34	15
	(5)		27	文章の構成をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読	経年	45	13	45	22	8	1		11
5	条件①		28	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	第3・4学年「書」(1)イ	書		50					29	50	21
	条件②		29	表やグラフから読み取ったことをまとめて書く。	第5・6学年「書」(1)エ	書	経年・活用	49					28	49	23
	条件③		30	根拠に基づいて自分の考えを書く。	第5・6学年「書」(1)ウ	書	経年	36					36	36	27
					全体正答率			56							

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

２　指導のポイント

(1) 司会者、発言者の役割を位置付けた話合い活動を充実させましょう。

ア　問題の概要

1（４）話合いにおける司会の役割がわかる。	第５・６学年「話・聞」（１）オ	正答率　57%

イ　誤答分析

誤答を分析すると、「最初に話合いの全体の流れについて確認していた」「提案の共通点とちがう点について整理していた」を選び、実際の話合いの展開とは異なるものを工夫と捉える傾向が見られました。

ここでは、司会者が、話題に沿ってどのように話合いを進行しているかを捉えながら聞く力に課題があると考えられます。

ウ　指導上の留意点

（ア）　話合いにおける司会者の役割については、既に小学校第５学年及び第６学年（指導事項エ）で学習しています。中学校第１学年では、小学校段階での学習内容を改めて理解させるとともに、様々な機会を捉えて習熟させていく学習につながります。

（イ）　指導に当たっては、小学校で経験した話合い活動（司会者や発言者の役割を決め、立場や意図を明確にしながら計画に沿って話し合う）を踏まえ、論点や発言内容の整理、発言の促しといったこれまでの学習を具体的に振り返るとともに、話題や展開を捉えながら互いの発言を結び付けて考えをまとめていく話合いの学習に発展させていくことが大切になります。

(2) 人物像や内面にある深い心情を捉えられるよう、物語の内容と表現の特徴を関連付けながら分析的に捉え、その効果について自分の考えをもつ学習活動を充実させましょう。

ア　問題の概要

3（３）場面の描写と登場人物の様子を読む。	第５・６学年「読」(1)エ	正答率　30%

イ　誤答分析

無解答率は10%でした。誤答を分析すると、線部（引用文）の直前から理由に当たりそうな記述を見つけた書き抜きや、「どのような体験がきっかけか」の「体験」に引きずられた心情を含まない文の解答が多く見られました。また、一文の初めの五字を抜き出す条件を踏まえていない解答も見られました。

この問題は、登場人物の心情を捉えるために、直接的な心情表現や暗示的な心情表現などに注意して、想像を豊かにしながら読む力が求められます。登場人物の心情の変化を読み取るための手がかりとして、文脈をたどりながら場面展開や情景描写等に着目して読むことに課題があると考えられます。

ウ　指導上の留意点

（ア）　小学校第３学年及び第４学年では、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことについて、小学校第５学年及び第６学年では、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることについて学習しています。このことは、中学校第１学年の、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる学習につながります。

（イ）　指導に当たっては、登場人物の見方や考え方を直接表している心情描写と、暗示的に表している登場人物相互の関係に基づいた行動描写や情景描写などを重ねて、内面にあるより深い心情を捉える学習が大切です。そのためには、例えば登場人物の相互関係を捉える人物相関図を用いて読む言語活動を設定し、描写や表現の効果に着目しながら、人物像につながる複数の叙述を関連付けて読み、優れた叙述に着目して様々な表現効果についても考えることができるようにしましょう。

こうした学習は、根拠を明確にした解釈を互いに出し合って、その思考過程を辿ったり妥当性を吟味したりすることによって、個々の内容の理解を深めたり広げたりすることにつながります。

⑶ 得た情報の中から自分の考えの根拠となる事柄を捉え、根拠を明確にして書く学習を大切にしましょう。

ア　問題の概要

5	条件② 表やグラフから読み取ったことをまとめて書く。	第５・６学年「書」⑴エ 正答率49%
	条件③ 根拠に基づいて自分の考えを書く。	第５・６学年「書」⑴ウ 正答率36%

イ　誤答分析

誤答の多くは、条件②に反して「Ａ・Ｂそれぞれのグラフから読み取ったことを、まとめずにそれぞれ形式段落として分けて書いてしまうもの」、条件③に反して「読み取ったことに対する思いは書いているものの『これから自分が読書に関してどのように取り組んでいきたいか』という内容と関係のないもの」でした。

この問題では、複数の資料から読み取ったことを適切な言葉や数値を用いて記述する力や、それらを関連付けて根拠とし、自分の考えを明確にする力が求められています。「複数の資料を関連付けて読み取ることはできるが条件通りに記述できない」、「関連付けて考えてはいるが問いを正確に理解しておらず求められていることを答えることができない」という傾向があり、指定された条件通りに文章を書く経験が不足していることが考えられます。

ウ　指導上の留意点

（ア）　小学校では、第５学年及び第６学年の「書くこと」の指導事項ウ・エにかかわって、事実と感想、意見などとを区別して書く学習や図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書く学習を行っています。このことは、中学校第１学年の「書くこと」の指導事項ウ「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」につながります。

（イ）　指導に当たっては、例えば、日常生活の中からテーマを見つけて調査報告文を書いたり、記録文にまとめたりする言語活動を設定することが効果的です。その際、説明や記録の文章を分かりやすくするために、図表を利用して自分の考えを書く活動を位置付けましょう。推敲では、論の筋道が通るか、根拠は適切か、説得力があるか等について吟味させることが重要です。交流を通してできるだけ多くの生徒作文に触れさせることも大切にしましょう。

⑷　説明的な文章の内容を把握しながら、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて読む学習活動を充実させましょう。

ア　問題の概要

4	（３）目的に応じて、中心となる語や文を捉えて読む。	第３・４学年「読」⑴イ　正答率　31%

イ　誤答分析

無解答率は13%でした。誤答を分析すると、図で示された部屋の条件ではなく、実際に小鳥がさえずり始めた部屋の条件を解答する傾向が多く見られ、二つの部屋の条件の違いを表す語や、観察結果を表す文に着目できなかったという要因が考えられます。

ここでは、中心となる語や文を捉えながら、文章に書かれている内容と図を結び付けて読むことが求められます。文章と図表などとの関連を考えながら読み、書き手の伝えたい内容をより的確に読み取る力に課題があることが考えられます。

ウ　指導上の留意点

（ア）　小学校では、第３学年及び第４学年の指導事項イを受けて、第５学年及び第６学年では、目的に応じて文章の要旨を捉えたり、自分の考えを明確にしながら読んだりすることを学習しています。このことは、中学校第１学年「読むこと」の指導事項イ「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などとを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」につながります。

（イ）　指導に当たっては、図表などが文章の中心的な部分、または付加的な部分のどこと関連しているかを確認し、図表を用いている筆者の意図を考えながら、筆者の伝えたい内容を読む指導が必要です。図表が使われている文章を読み、図表が文章をより分かりやすくするために使われているか、文章が図表の解説になっているか、筆者の主張の根拠としてふさわしい用いられ方であるかを捉え

ることです。そして、説明や記録の文章を書く際に、図表などを効果的に用いて考えを伝えることの有用性を実感できる言語活動を、単元の中に意図的に位置付けていきましょう。

次に、展開例を掲載します。

【図表の役割と効果に着目し、筆者の意図を考えながら説明の文章を読む言語活動を位置付けた展開例】

教材例　　シカの「落ち穂拾い」－フィールドノートの記録から－（光村図書　１年）

≪単元指導計画≫

次	時	主な学習活動
1	①	○初発の感想を基に、学習計画を立てる。 筆者の「考察」は、なぜ説得力があるのか解明しよう。 ○新出漢字、語句の確認をする。
2	②	○課題に対する考えを交流し、分類する。 ・構成（「考察」の導き出し方） ・図表の活用
	③	○小見出しを手がかりに文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、どんな手順で「考察」導き出したか確認する。
	④	○図表の役割や効果について考える。
3	⑤	○筆者の論の展開について考えたことをまとめる。 ○単元で付いた力を振り返り、次単元での活用の見通しをもつ。 ※次単元：「調べたことを報告しよう」 （生かす力：構成の工夫、図表の活用）

≪第４時：「図表の役割や効果を考える」≫

導入	1　課題を確認する。 筆者は、なぜこれらの図表を用いたのだろうか。 2　学習の見通しをもつ。 ・図表と文章をつなげて読み、実際の効果について分析することを確認する。
展開	3　課題を解決する。（グループ）→下図Ａ 4　図表の効果を検証する。（全体）→下図Ｂ 5　図表を用いた筆者の意図についてまとめる。 6　妥当性について考えをまとめる。（個） ①　図表の必然性について説明する。 ②　有効な図表案について提案する。
終末	7　振り返り ・図表の有効性 ・分析の過程

≪図Ａ「課題解決」≫

春になると、シカの食物が不足するという仮説が正しいと証明できると筆者は考えて図２を使ったのかも。

表２は、サルの落とす食物の方が栄養価が高いことを示しているから、これも仮説の証明として使っているんだね。

表２に加え、図３で体重が軽くなる季節を示すことで、栄養状態の悪い春にサルの落とす栄養価の高い食物が必要になるという考察につなげていると思うわ。考えの根拠となる事実ね。

表の効果については小学校でも学習したけど、文章とつなげて考えると「筆者の意図」を捉えることができるね。でも、本当に全部必要なのかな。

≪図Ｂ「検証」≫

「図２　イネ科の草の供給量の変化」（教科書Ｐ122）から「分かること」を列挙する。

↓

グラフから「分かること」と文章を比較し、グラフの示す事実と文章のつながりを確認する。

↓

グラフ中の複数の情報から、筆者が仮説を証明するために有効だと判断した情報に着目して、筆者の意図を捉え、その妥当性について自分の考えをもつ。

↓

「妥当性がある」→まとめ①へ

「妥当性に欠ける」→まとめ②へ

「どのような効果があるか」「何に対する根拠か」等の分析を通して「図表の効果」についての理解を深め、適切に図表を活用する学習活動につなげていきましょう。